すまいとくらしの未来へ
三井不動産レジデンシャル
MITSUI FUDOSAN RESIDENTIAL

NIPPON PAPER

三井不動産グループの
&EARTH

NEWS LETTER

2026年11月27日

三井不動産レジデンシャル株式会社
日本製紙株式会社

三井不動産レジデンシャルと日本製紙が資源循環モデルを共同推進

「苗木の里親プロジェクト」マンションで育てた苗木150本以上を森林へ

～都市の暮らしから森林づくりにつながる取り組みを継続的に実施しCO2削減～

本取り組みのポイント

1. **自宅で育苗していただくことで、マンションで誰でも気軽に植林活動へ参加可能な苗木の里親プロジェクトを推進。**
2. **第1弾で参加者が育てた苗木150本以上を回収し、日本製紙の社有林への植林を完了。一連の循環を実現。**
3. **幕張ベイパークにて第2弾の育苗イベントを開催。マンションでの育苗から森林への植林までの取り組みを継続。**

三井不動産レジデンシャル株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：嘉村 徹）と日本製紙株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：瀬邊 明）は、株式会社三井住友銀行（本店：東京都千代田区、頭取CEO：福留 朗裕）のサポートのもと、マンションに暮らしながら森林づくりに参加できる「エリートツリー」苗木の里親プロジェクトを推進しています。

本プロジェクトは、従来品種と比較して花粉の発生量が少なく、高い成長性を持つ「エリートツリー」の苗木を、三井不動産レジデンシャル分譲マンションのご入居者様などにご自宅で約1年間育苗いただき、その後日本製紙の社有林へ植林する取り組みです。マンション居住者でも森林づくりに参加できる新たな仕組みとして、木育の推進や循環型社会への参画機会の創出を目指しています。

このたび、2025年5月に実施した第1弾イベントの参加者に育てていただいた苗木150本以上を回収し、日本製紙の社有林へ植林が完了しました。植林した苗木は今後、森林資源として育成され、将来的には日本製紙グループの製品へと生まれ変わります。

また、第2弾イベントを大規模複合再開発エリア「幕張ベイパーク」内の「MAKUHARI NEIGHBORHOOD DOCK」にて、お子さま約70名とその保護者様を対象としたワークショップとして開催しました。今後もイベントを継続的に開催し、苗木の育成から回収・植林へとつながる取り組みを広げることで、エリートツリーの普及拡大、木育の推進および循環型社会への参画機会の創出してまいります。



参加者が絵を描いたオリジナルポット

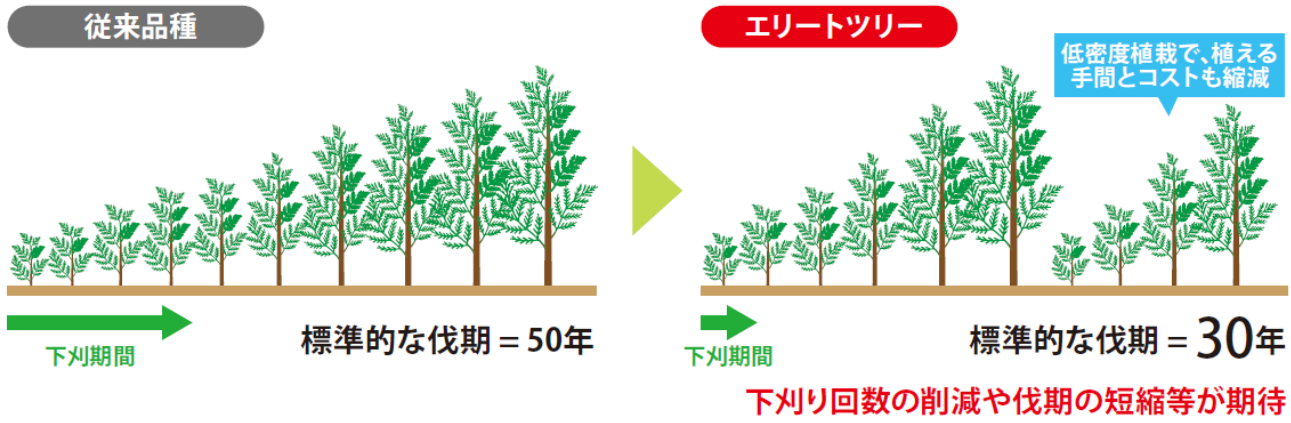


社有林への植林イメージ

■エリートツリーについて

エリートツリーは、従来品種に比べ、成長性・CO2吸収量が約1.5倍、花粉量が一般的なスギ・ヒノキの半分以下であり、通直性に優れた特徴を持ちます。その特徴から、現在の林業の課題となっている下刈りによる造林コストの削減や花粉症問題の解決、カーボンニュートラル社会の実現に向けて注目されています。農林水産省は「みどりの食料システム戦略※」の中で、エリートツリー等を2030年までに林業用苗木の3割、2050年までに9割以上へ拡大させる目標を設定しており、今後の普及拡大が期待されます。

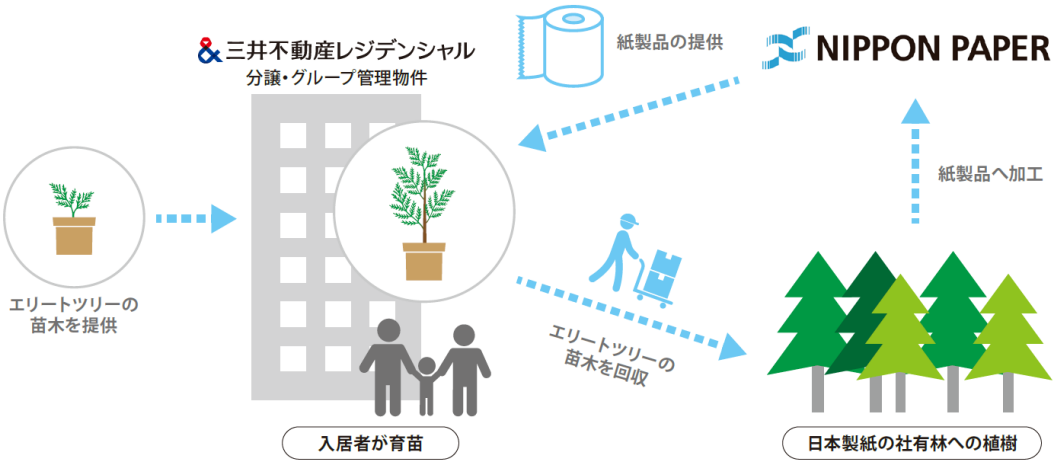
※参考：農林水産省「みどりの食料システム戦略」HP　https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/



従来品種とエリートツリーの比較

■都市のくらしと森林をつなぐ「エリートツリー」苗木の里親プロジェクトについて

エリートツリーは、植林までに約1年間の育苗期間が必要です。通常、山林種苗協同組合員や生産者にて育苗していますが、本プロジェクトにおいては、マンションご入居者様のご自宅にて育苗いただくことで、誰でも、気軽に植林活動へ参加が可能となります。育苗期間を終えた苗は、日本製紙にて回収し、社有林へ植林を行い、将来的には日本製紙グループの製品へと生まれ変わります。本プロジェクトの参加者へは、日本製紙より紙製品の提供を行い、日々のくらしを豊かにしつつ、楽しみながら植林活動に参加いただきます。



「エリートツリー」苗木の里親プロジェクトスキームイメージ

■マンションで育てた苗木を日本製紙の社有林へ植林。継続的な取り組みへ

2025年5月に実施した第1弾イベントの参加者に育てていただいた苗木150本以上が無事に回収され、日本製紙の社有林へ植林が完了し、森林資源として育成され、将来的には日本製紙グループの製品へと生まれ変わります。参加者からは、「育てたエリートツリーが今後どうなるかを話し合い、環境について学ぶ良い機会になりました。」「この木が将来につながると思うと嬉しいです。」など、好評をいただきました。こうした反響を踏まえ、大規模複合再開発エリア「幕張ベイパーク」において、第2弾イベントを開催いたしました。

イベント当日は、子どもたちが苗木を育てるためのポットに自由に絵を描き、世界に一つだけのオリジナルポットづくりに挑戦しました。また、人気キャラクター「うそ探偵トマント」が会場に登場し、子どもたちの制作を応援したほか、一緒に記念撮影を行うなど、参加者が楽しみながら学ぶ機会を創出しました。



本プロジェクトは、マンションという日常の場で苗木を育て、森林へ戻すことで、これまで植林に接点の少なかった都市居住者の皆さまにも森づくりに参加いただく取り組みです。今後もイベントを継続的に開催し、育苗・回収・植林という資源循環の輪を広げるとともに、エリートツリーの普及拡大、木育の推進および循環型社会への参画機会の創出を目指します。

■第2弾イベント概要

開催日時	2026年7月26日（日）10:00~11:00
開催場所	MAKUHARI NEIGHBORHOOD　DOCK
参加者数	「幕張ベイパーク」エリアのお子さま約70名が参加
イベントの様子	・ゲストに「うそ探偵トマント」をお迎えし、トークショーを実施 ・約1年間マンションのご自宅で育苗していただくエリートツリーの苗木のお渡し ・ワークショップではお子さまに再生可能な資源である木をもとにした新素材「ミネルパ®」を原材料としたオリジナルポット（植木鉢）へ、オリジナルのデザインを描いていただき、それぞれ発表を実施





参考：2025年5月27日付
豊かな環境を次世代へつなぐ「エリートツリー」苗木の里親プロジェクト第一弾 リリース
https://www.mfr.co.jp/company/news/2025/0527_01/

■うそ探偵トマントについて

「うそ探偵トマント」は、サンエックス株式会社と株式会社ファンワークスが共同で手掛けるキャラクターです。やさいやくだものをモチーフとしたユニークなキャラクターたちが登場する、かわいらしさと本格ミステリー要素を掛け合わせた作品で、幅広い世代にお楽しみいただける“かわいい×ミステリー”の新ジャンル作品です。



©SAN-X , FANWORKS / トマント探偵事務所

■三井不動産レジデンシャルのくらしのサス活について

三井不動産レジデンシャルは、全住宅事業のブランドコンセプトである「Life-styling×経年優化」のもと、多様化するライフスタイルに応える商品・サービスの提供を目指しており、ご入居後のくらしを楽しみながら、省エネルギー行動等の環境貢献に取り組んでいただく「くらしのサス活」や、すまいとくらしから循環型社会の実現を目指す取り組み「くらしのサス活 Circular Action」を推進しております。

本プロジェクトも「くらしのサス活 Circular Action」の一環として、すまいとくらしの両面からカーボンニュートラルの実現を目指しています。

くらしのサス活
三井不動産レジデンシャル

■三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「＆マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によってさらに大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。2024年4月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY（重点的に取り組む課題）」として、「１．産業競争力への貢献」、「２．環境との共生」、「３．健やか・活力」、「４．安全・安心」、「５．ダイバーシティ＆インクルージョン」、「６．コンプライアンス・ガバナンス」の６つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取り組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】

・「グループ長期経営方針」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/innovation2030/

・「グループマテリアリティ」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/

・「＆ EARTH for Nature」 https://www.mitsuifudosan.co.jp/business/development/earth/for-nature/

また、2025年4月に、街づくりにおける環境との共生宣言「& EARTH for Nature」を策定し、「環境」を自然と人・地域が一体となったものと捉え、豊かな「環境」を広げ、未来の世代へつなぐ街づくりを推進しています。 本宣言における重点課題として、「緑を守り育む」「水の魅力を生かす」「生態系を豊かにする」「地域の想いをつなぐ」「自然資源を循環させる」の5つを定めています。本レターの取り組みは、「& EARTH for Nature」における重点課題の2つに貢献しています。



緑を守り育む



自然資源を循環させる

■日本製紙について

日本製紙は、日本製紙グループ全体で、苗木事業拡大プロジェクトを発足し、取り組みを強化しています。

「木とともに未来を拓く総合バイオマス企業」として、当社グループのグリーン戦略に基づき、森林の持つ様々な価値を最大化させつつ、バイオマス製品の普及を進め、循環型社会の構築に貢献していきます。